

埼玉県総合リハビリテーションセンターＥＳＣＯ事業（２期）

に係る提案審査講評

埼玉県総合リハビリテーションセンターは、リハビリテーション病院、障害者社会復帰・訓練支援センター、健康増進施設などを設置したリハビリテーションサービスを提供している施設です。

当施設は、病院という用途上、稼働時間が長くエネルギー消費も大きいことから、埼玉県地球温暖化対策推進条例に基づき積極的な対策を実施すべき大規模事業所に指定され、平成２３年度から平成２６年度までの４年間で、基準年比平均８％の温室効果ガスの削減を目標としています。

そのため民間のノウハウを生かしたＥＳＣＯ事業を導入し、省エネルギー及び二酸化炭素排出量削減を推進するための設備改修を行うこととしました。

独自性のあるＥＳＣＯ提案を一般公募したところ、「アズビル株式会社・首都圏リース株式会社・株式会社泉屋工務店」、「株式会社エネルギーアドバンス・株式会社大気社・ムサシ産業機械株式会社」の２グループから応募がありました。

いずれも目標とする、二酸化炭素削減量２４３トンを上回る提案がなされました。

このＥＳＣＯ提案を埼玉県総合リハビリテーションセンターＥＳＣＯ事業（２期）提案審査要領に基づき、応募者によるプレゼンテーションを実施するとともに提案書の審査を行いました。

その結果、評定点の最も高い、アズビル株式会社のグループの提案を最優秀提案とし、優先交渉権者とする事としました。

また、次点の株式会社エネルギーアドバンスのグループの提案を優秀提案としました。

アズビル株式会社のグループは、８％（２４３トン）の目標値を大幅に上回る１３．３％（４０７トン）の二酸化炭素削減の提案がなされました。

その内容は、ボイラーや冷温水発生機などの熱源機器の更新、ポンプにインバータ制御の追加、照明・誘導灯のＬＥＤ化の採用など、経済性、技術面、環境面でバランスのとれた提案となっています。

さらに、維持管理面では、遠隔保守センターより保守を行うことで、トラブルの早期発見、迅速な復旧が可能になるなど、この遠隔診断方式の採用により、従来の保守に比べ品質の向上、作業の効率化を図るなど独自性が見られました。

また、株式会社エネルギーアドバンスのグループからは、病院施設の特性を十分理解した安全性の高い提案がなされました。

最後に、多大なる労力をおかけし、貴重なるご提案をいただいた応募者各位に心からお礼申し上げます。

平成２４年７月３１日

埼玉県総合リハビリテーションセンターＥＳＣＯ事業（２期）提案選定会議

委員長	高村 淑彦
副委員長	富岡 正明
委員	島崎 規子
委員	布施 征男
委員	川崎 肇
委員	田嶋 義明